

## 第 153 回北海道歯科技工学術研修会

講師：須田善行

演題：口腔外科から全顎補綴まで 歯科医師と歯科技工士の治療完了までの道

抄録：

歯科に関する疾患は、小さいものは歯牙のう蝕から、大きいものは頭頸部腫瘍切除後の再建外科なども治療範囲に属し、部位や大きさも非常に多岐に渡っている。疾患の重症度や部位の大小だけではなく、歯科に委ねられている治療のゴールは、痛みや違和感などからの解放や審美性の改善だけではなく、時にはその人の命や生き方まで大きな責任を負っている。

歯科医が請け負う仕事には、治療の過程の中に必ず歯科技工士というパートナーが必要となる。

まず治療開始から考えると、治療計画の段階での模型相談、治療の方針を具現化する模型製作があり、口腔外科治療であれば外科手術の結果を左右するような補綴装置や診断模型。全顎補綴治療であれば治療咬合の顎位から口腔内に再現されたプロビジョナルレストレーションやトリートメントデンチャーなども挙げられる。これらの症例が示すように、我々が向かう治療のゴールには歯科医師と歯科技工士の共同の取り組みが非常に重要であると言っても過言ではない。

これまで過ごしてきた診療環境の中で、その時代、その地域、また様々な職場環境の中で数多くの信頼できる歯科技工士と知り合うことが出来た。

今回、演者は自分の財産でもある信頼のできる歯科技工士との治療の道を供覧し、今までの感謝とエールを皆様にお送りしたい。